

[エジプト統一王国] エジプト…ナイル川流域：増水期に泥が運ばれ農業が発達。

ヘロドトス(ギリシアの歴史家)は「エジプトはナイルのたまもの」という言葉を残した。

紀元前 3500 年頃…ノモスと呼ばれる独立集落が現れる。

→紀元前 3000 年頃…上エジプト(ナイル川中流)のメネス王が
下エジプト(ナイル川下流)を統一。

→ファラオ(王)を中心とした、中央集権国家の形成。

古代エジプト統一王朝は3つに分けられる。

古王国…第3～6王朝：都はメンフィス。巨大ピラミッドの建設。

中王国…第11～12王朝：都はテーベ。ヒクソスの侵入。

親王国…第18～20王朝：都はテーベ。アメンホテプ4世の改革。

〈古王国〉…第3～6王朝、都：メンフィス(ナイル川下流)

・神権政治の基礎を確立。

・巨大ピラミッドの建設。クフ王のものが最大

→ギザの三大ピラミッド(クフ王・カフラー王・メンカウラー王)

〈中王国〉…第11～12王朝、都：テーベ(ナイル川中流)

・ヒクソス(アジア系民族)が侵入。

→第15～16王朝を建てる。

〈新王国〉…第18～20王朝、都：テーベ

・ヒクソスをエジプトから追い出して成立。

・アモン＝ラーの信仰…中王国時代からテーベの守護神アモンと太陽神ラーの信仰が結びつきアモン＝ラー信仰として有力になった。

→テーベのアモン神官の政治的発言力が高まる。

⇒アメンホテプ4世の改革…アトンの信仰を強制し、自身をイクナートンと改名。

テル＝エル＝アマルナに遷都。アケト＝アトンと命名。

→アマルナ美術(自由で写實的)が発達。

⇒アメンホテプ4世(イクナートン)の死後、ツタンカーメン王が後継者となるが、アモン神官が勢力を巻き返し改革は挫折。都はテーベに戻る。

→前 1286 年…ラメセス2世、カデシュの戦い(vs ヒッタイト)に勝利。